

薬局における

出題者 ファーマスタイル編集部

疾患別対応マニュアルクイズ

糖尿病治療薬 編
(インスリン以外)

※解答は16ページ➡

厚生労働省の『薬局における疾患別対応マニュアル～患者支援のさらなる充実に向けて～』は活用されていますか？

今回のクイズは、本マニュアルの「糖尿病治療薬（インスリン以外）」に関する出題です。マニュアルを既に読みこんでいる方は復習として、読んでいない人もまずはこのクイズで内容をチェック！正解だけでなく、その理由も考えてみてください！

「薬局における疾患別対応マニュアル 糖尿病」はコチラ



Q1 次のうち、糖尿病内服薬に関する記述として正しいものはどれか。

- A α -グルコシダーゼ (α -GI) 阻害薬は、単独でも低血糖リスクが高く、体重増加を来しやすい。
- B SGLT 2 阻害薬は、腎臓でのブドウ糖再吸収を抑制することで尿中への排泄を促進し、心・腎保護作用を有する。
- C チアゾリジン薬は、単独投与でも低血糖リスクが高く、体重減少をもたらす。
- D ビグアナイド薬は、重度腎機能低下例でも安全に使用でき、造影検査後も当日に継続可能である。

Q2 次のうち、インスリン分泌促進系糖尿病薬の特徴として正しいものをすべて選べ。

- A GLP-1 受容体作動薬は血糖非依存的にインスリン分泌を促進し、低血糖を起こしやすい。
- B DPP-4 阻害薬は体重への影響が少ないが、SU薬併用で低血糖リスクが増強する。
- C イメグリミンはインスリン抵抗性改善作用を持たず、単独でも低血糖を来しやすい。
- D SU薬は単独でも低血糖リスクが高く、高齢者では少量開始が推奨される。
- E グリニド薬はSU薬との併用が推奨され、低血糖リスクはほとんどない。

Q3 経口血糖降下薬が処方されている患者の情報収集として適切なものをすべて選べ。

- A 食事療法・運動療法の評価は処方内容から推測可能であり、追加確認は不要である。
- B 肝機能・腎機能・心血管機能の状態に加え、妊娠・授乳状況を確認する。
- C SGLT2阻害薬が処方されている場合は糖尿病治療目的と判断してよい。
- D ビグアナイド薬処方時は腎機能の状況およびヨード造影剤検査予定の有無を確認する。
- E α -GI薬長期使用例では肝機能検査結果に注意する。

Q4 SGLT2阻害薬および α -グルコシダーゼ阻害薬の服薬指導として正しいものはどれか。

- A SGLT2阻害薬の頻尿・多尿は重大副作用であり、速やかな中止を勧める。
- B SGLT2阻害薬では脱水予防のため、こまめな飲水を指導する。
- C α -GI薬の消化器症状は持続するため、消化器症状が現れた場合は早期中止を前提に説明する。
- D α -GI薬による低血糖時は砂糖を摂取するよう説明する。

Q5 インスリン分泌促進系薬剤の服薬指導として正しいものをすべて選べ。

- A DPP-4阻害薬はSU薬併用でも低血糖リスクは変化しない。
- B GLP-1受容体作動薬は服用後30分間は飲食や他剤服用を避ける。
- C イメグリミンはビグアナイド薬併用で消化器症状の頻度が増加する可能性がある。
- D SU薬の飲み忘れ時は、気づいた時点ですぐに服用する。
- E グリニド薬は服用後すぐに食事をとらないと低血糖の可能性はある。



解答



Q1

正解 B

解説 SGLT2阻害薬は腎での糖再吸収を阻害し尿中へのブドウ糖の排泄を促進する作用を持ち、心・腎保護や心不全抑制効果が示されている。 α -GI薬は単独低血糖リスクは低く体重への影響はない。チアゾリジン薬は低血糖リスクは低いが体重増加や浮腫・心不全に注意する。ビグアナイド薬はeGFR 30未満で禁忌であり、造影剤の投与後48時間は再開しない。

マニュアル該当箇所 P10「Q2-1. 糖尿病治療薬の特徴と注意点は何か。」

Q2

正解 B D

解説 DPP-4阻害薬は体重への影響が少ないがSU薬併用で低血糖リスクが増加する。SU薬は血糖非依存的にインスリン分泌を促進するため単独でも低血糖リスクが高く、高齢者では少量からの開始が必要である。GLP-1受容体作動薬は血糖依存性作用で低血糖は起こりにくい。イメグリミンは血糖依存性分泌促進とインスリン抵抗性改善作用を有し低血糖リスクは低い。グリニド薬はSU薬と併用しない。

マニュアル該当箇所 P10「Q2-1. 糖尿病治療薬の特徴と注意点は何か。」

Q3

正解 B D E

解説 Aの食事・運動療法の評価は糖尿病の連携手帳や管理シート等で確認する必要がある。また、CのSGLT阻害薬の一部は心不全・慢性腎不全適応の場合もあり糖尿病目的とは限らない。

マニュアル該当箇所 P13「Q3-1. 一般的な患者情報に加え特に収集・確認すべき患者情報や、患者情報の入手方法について教えてほしい。」

Q4

正解 B

解説 SGLT2阻害薬では多尿・頻尿は作用機序に伴うものであり、脱水予防の飲水指導が重要となる。 α -GI薬の消化器症状は多くが1~2か月で軽減し、低血糖時は単糖類(ブドウ糖など)で対処する。

マニュアル該当箇所 P33「Q4-5. 主に内服薬を用いて治療する患者への服薬説明のポイント、各薬剤の特性に応じた注意点は何か。」

Q5

正解 B C E

解説 GLP-1受容体作動薬は服用後30分の絶食が必要であり、イメグリミンはビグアナイド併用で消化器症状が増える。DPP-4阻害薬はSU併用で低血糖が増強する。SU薬の飲み忘れ時は追加服用しない。グリニド薬は食事直前投与で、服用後に食事を取らないと低血糖リスクがある。

マニュアル該当箇所 P33「Q4-5. 主に内服薬を用いて治療する患者への服薬説明のポイント、各薬剤の特性に応じた注意点は何か。」